

野ばら 5月号

考える力をつける

校長 夏見隆晴

最近の学校教育を語る時、よく使われる言葉に「考える力を如何に養成するか」というのがあります。いかなる学校段階であっても、入学試験は「考える力」を試せるような問題を考えなければならぬということになっております。このことは、言うは易しいのですが、実行に移すととなかなか困難なことで、試行錯誤を未だ繰り返しているという段階ではなからうかというのが現実でしょう。

それでは、そんな現実を打破するためには、何が妨げになっているのでしょうか。その一つは、一口に「考える」と言っても、考えるという行為の基底には多くの知識を必要とするということです。この「知識」の獲得のために、学校教育は多くの時間を割かざるを得ません。確実に広い知識を有している者の方が、考える事においても有利であるということは自明の理であります。知識なくして考える事等できないというのが本当です。

しかし、近年は単なる知識であれば、コンピュータの方が多く持ち合わせており、そんな知識の獲得のために、人生の大半を消費するなどということは無駄であると考え人間も多いのです。確かに人間としての営みが、記憶と再生だけに限定できるのであれば、コンピュータで十分です。しかし、現時点では獲得した知識を持って、そこに秘められたままの真理というものを見つけ出すことのできる機会は、まだまだ多くあるのではないかと思います。つまり、地道な研究を通して、考え、真理へと到達するという道も沢山残されたままに残っているのではないのでしょうか。

今の日本社会においては、幸いなことに、多くの人間に学ぶ機会が与えられています。わが校に学ぶ生徒たちには、人一倍そのチャンスが与えられていると言ってもよいでしょう。この事実を心に深く刻み、将来は、どんなに小さなことでもよいから、人間の幸福のために役立ったと言えるような人生になるように、日々努力を重ねて欲しいというのが、わたしの生徒たちへの願いであります。そのためには、日々の小さな努力を他者のために、愛を込めて行うという心掛けを期待しております。

仕事は、どのようなものであっても、そこには愛が込められていたという評価が貰えるように心がけることが大切です。そして愛とは、自分のためではなく他者のためにという視点を必要とするので、多くの人々に理解してもらえるだけでなく、人の心をも動かし、さらに大きな輪となって広がって行くものです。

人間は、「考える」ということを大切にしなければ、どれだけ知識を己のなかに積み上げて、真に学んだとは言えないのです。わたしたちは、何処に向かって人生という旅をしているのかを自覚して、日々を有意義に過ごすこと、そこに真の学びがあります。

「1 = 3」

宗教科 金井哲也

「先生、神様って何人いるんですか。」数日前の昼食時、4年生のH君の質問です。ギリシャ神話などに絡んでの質問か、三位一体を踏まえての質問か、本当のところは分かりません。私は驚愕と困惑の入り混じった表情しかできませんでした。一方、なぜか彼の表情は心なしか勝ち誇ったようでした。

私はため息を付きつつ、こう答えるしかありませんでした。「なんてキリスト教の本質に切り込んだ素晴らしい質問なんだ。君は本当に鋭い、すごい。対して、私にはこのお昼ご飯の時間内に答えられるだけの力が無い……。なにしろ $1 = 3$ 、 $3 = 1$ というむちゃくちゃな数式をなんとかしなければならぬのだから。でも時間をかければ少しは説明できると思うから、ぜひ放課後に来てくれ。何時間でも、何日でも付き合うよ。資料もいっぱい用意して待っている。」

残念ながら、まだ彼の訪問は実現していません。

意地悪な返答はともかく、「神様何人問題」がキリスト教の本質であることは確かです。私たちの学校でも同じく、カトリックの祈りで最もたくさん唱えられるのは、「天におられる」でも「アヴェマリア」でもなく、「父と、子と、聖霊とのみ名によって」です。でも考えてみれば、このように摩訶不思議なことをさらっと口にするということも、そうありません。

授業でよく紹介する、アウグスティヌスという聖人のエピソードがあります。彼が三位一体のことについて必死で理解しようと苦闘していたとき、疲れて海辺に散歩にいきました。すると砂浜に小さな穴を掘り、繰り返しコップで海の水を汲んでは穴に入れている子どもがいるのに気がつきました。アウグスティヌスは子どもに尋ねます。「ねえ、ボク。いったい何をして遊んでいるの？」子ども「海の水をぜーんぶこの穴の中に入れようとしているんだ。」ア「いやいや、それは無理だよ。君が子どもでもそれくらい分かるだろうに。だって海はこんなに大きくて穴はこんなに小さいし、この穴は砂で出来ているんだから、水はすべて漏れてしまうんだよ。」子ども「うん、でもおじさんの小さくて隙間だらけの頭の中に神様の秘密を押し込むことよりは、まだ簡単だと思うけど」(羽が生えて消える)、というものです。

だが流石、彼の聖人たる所以は、これであきらめるのではなくむしろ謙遜に自分の限界を受け入れ、「できることをした」ことでした。その結果がキリスト教最上級の古典『三位一体論』です。

私たちもスケールは違えど、勉強していて限界という壁にぶつかることがよくあります。だが迷路の必勝法は壁に手を添えてひたすら歩くこと。時間はかかるが、諦めずに進めば「塞ぐ壁」が「導く壁」に変わっていきます。人生においても壁にぶつかることはさらによくあります。時間はかかるが、諦めなければ「三位一体の神」というゴールに辿り着くものと信じています。



🌀 5月の行事 🌀

8日(月)	歯科検診
9日(火)～10日(水)	中1宿泊研修
13日(土)	聖母ミサ 総合 PUP③
17日(水)～19日(金)	第1回定期試験 18日まで中学 19日まで高校
24日(水)	小中交流会(部活動紹介) 15:55～16:35 職員会議
26日(金)～28日(日)	高校総体
27日(土)	総合
29日(月)	教育実習生受け入れ 6月17日まで
31日(水)	小6高2交流会

生徒の頑張り🏁

第3回 投てき競技会 in 名護

2017年4月22日(土)

種目 ジャベリックスロー 男子中学 優勝 中3 山田一心

種目 砲丸投げ(6kg) 男子一般・高校 2位 高1 藤原孝史朗

種目 円盤投げ(1.75kg) 男子一般・高校 3位 高1 藤原孝史朗



聖母祭のご案内



5月13日（土）、8時30分より、カトリック真栄原教会にて聖母祭ミサに与ります。
特に保護者の皆様宛てに通知文や出席票は配布しておりませんが、参加を希望される保護者の方は、お子様を通して学級担任に一言お知らせください。

駐車場は教会駐車場を予定しています。もし変更の場合には、当日、立て看板か教員の誘導によりご案内いたします。

保護者の皆様へ

学校よりお願い

①ハイサイメールへの登録はお済みですか

一斉配信メール（ハイサイメール）の登録がまだお済みでない方は至急登録をお願いします。登録方法が不明な方は学級担任にお知らせ下さい。登録手順をお示ししたプリントをお渡しします。

また、登録していても内容が確認できないなど機能を果たしていないのは、多くの場合迷惑メール防止機能によるものが多いと思われますので、取扱店等でご確認下さい。

②送迎に関するご協力願い

中高ではスムーズな乗降にご協力いただいておりますが、一定の時間を超過しての駐車は、道路交通法違反（以降道交法と記す）となります。人の乗り降り、荷物の上げ下ろしをスムーズに行う一時的な停車は道交法違反ではありません。これまでも地域住民の方々のご迷惑を少しでも解消するため、乗降場所が正門前に集中しないよう離れたところで降車し、残りは徒歩で登校していただくようご協力を求めて参りました。引き続きご協力の程、宜しく願いいたします。

退職された先生

英語科の玉城要先生が退職されました。